

# 平成27年度 事業報告書

平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで

特定非営利活動法人アジアの誇り・プレアビヒア日本協会

## 1、事業の成果

世界遺産プレアビヒア寺院とその周辺をめぐる環境は、2012年7月タイ・カンボジア両軍撤退以降、平穏な状態が続いている。また、2014年12月の日本外務省による渡航情報改訂によってカンボジア全域と同ランクとなったことを受けて、当協会は本年度を「プレアビヒア元年」と位置づけ、本格的な開発事業に取り組んだ。なお、そのために多くの会員が会議に参加できるように千代田区内に事務所を設けた。

まず、2015年9月27日、臨時総会を開催し、協会の新体制を構築することの承認を得た。この新体制はプレアビヒアインターナショナル設立を推進することを目的とし、旧会長職を廃止して、旧会長を理事長に配置するものである。

さらに、これは、2014年12月、ユネスコ国際委員会ICCが開催され、日本、アメリカ、中国、インド、等7ヶ国とタイ、カンボジア両国が参加し、プレアビヒア寺院の復興支援を決定したのを受けた新体制という側面もある。昨年度・本年度とも当会新理事長（旧会長）は駐カンボジア日本大使とともにこの会議に招請され、会議において重要な役割を果たしている。

また、本格的な開発に向けて、JICAをはじめとした諸機関・財団と開発計画の立案やその裏付けとなる資金に関する協議に入った。

今年度当会活動については以下に示すが、現地での活動推進のための現地駐在員の派遣は未だ実現していない。しかし、協会関係者を中心とした現地訪問の回数は前年をはるかに超えており、エコパーク（かつて「12haの土地」と呼んでいた土地）を中心に急速に開発が進んだ。これには国土緑化機構からの4年目の助成金も大きく貢献している。

さらに、2015年1月のJICAグローバル教育コンクールにおける特別表彰を受けた当協会傘下の学生隊は多くの学生の参加を得て、活発な現地活動を行った。とくに、2016年2月に遣した第12次学生隊は、参加学生34名という大派遣団となり、現地住民からの暖かい歓迎を受けた。また、2016年2月末には当協会員竹宇治氏を中心としたシニア訪問団の寄付によってエコパーク内に新たな井戸も設置され、エコパークの一層の発展の基礎が作られた。

### （1）植樹活動

今年度が4年目となる植樹活動は、活着率向上を目指して、「実のなる木」「花の咲く木」へと植樹樹木を変更したことが功を奏し、現地住民から歓迎され、エコパークを中心に着実に成果を上げつつある。また、これに付随したエコパーク内施設（井戸を含む）の整備が進み、農業を生活の基盤としてきた地域住民の生活向上にも寄与できるようになった。

### （2）農村支援活動

カンボジア政府から当協会が貸与されているエコパーク（旧「12haの土地」）を、パイロットファームとしての役割を果たしつつある。また、農民の自立、とくに女性や子ども達が豊かに暮らせるような農村支援活動として立案した「プレアビヒア地域の観光セクター人材開発」計画は愛・地球博成果継承財団から多額の助成金を受けられることが決定し、来年度から本格的に活動することとなった。

### （3）教育支援活動

今年度、第11次隊（2015年8月～9月）と第12次隊（2016年2月）学生隊を派遣した。従来通り、現地住民の生活調査や小学校での交流活動を継続して行ったが、本年度の訪問において、特筆すべきことは、第11次隊において伊藤会員寄贈の電子ピアノによる音楽教育活動と第12次隊が「地域の美化活動」を現地小学生とともに実施したことである。これらは現地住民から高評価を得たばかりか、活動中に熱烈な声援を得た。学生隊員は、この活動を今後も重要な活動項目として位置づけ、継続して実施していくための準備に入っている。

### （4）会員増強活動（含むホームページ刷新）

会員増強活動の一環であると同時に当協会のイメージアップを目的としてHPを刷新した。HPには会員各位の交流や、協会の情報開示がおこなえるよう工夫を加え、さらに、現地の状況を会員のみならず社会一般に紹介できるようなコーナーを設けた。大変好評を博していると考えている。

また、学生隊OB・OGを正会員として入会するよう促し、一定の成果を得た。

しかし、未だ広報活動が充実しているとは言い難く、来年度の課題と考えている。

2 事業の実施に関する事項  
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
アジア地域の遺跡周辺自然環境保全、修復事業	遺跡周辺整備 (境内の遺跡を除く周辺部コンセプト作成、当面必要となる事項の検討)	2015年9月	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	100人	住民45,000人、観光客200,000人/年	527
	バッファークゾーン(環境保全区域)の保全整備 (遺跡周辺20キロメートル四方内の地域)コンセプト作成、提案協議、現状の調査	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	15人	住民45,000人、観光客200,000人/年	418
植林、植樹、苗木の育成および事前調査事業	植林 (遺跡周辺、バッファークゾーン、エコビレッジの植林)事業計画の作成準備、第3回植樹祭開催	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	250人	住民45,000人	4,819
地域住民の生活向上と自立のための人材教育、職能訓練、農業支援事業	農村支援とくに女性・子どものための人材開発「プレアビヒア地域観光セクター人材開発」計画の立案	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	8人	住民45,000人	218
遺跡並びに周辺地域の観光資源開発支援事業	ウェルカムビレッジ(エコツア客用滞在施設)開発 宿泊設備の整備 コンセプト作成、提案、協議 中長期の事業計画の作成準備	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	10人	住民45,000人、滞在者3,000人/年 観光客200,000人/年	236
	観光プログラム開発 スタディツアー (現地体験研修) エコツアリズム (環境問題体験ツアー) ヘリテージツアー (遺跡巡りツアー) などの開発支援	年間	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	15人	スタディツアー参加者30人、観光客200,000人/年 カンボジア住民50人×365日のべ18,000人/年間 (雇用促進受益者)	418
子どもたちのための教育支援事業	教育支援プログラム策定 (文化遺産・環境保全教育) 小学校学校生活環境改善教育、 写生大会、運動会	2015年2月 2015年8月	カンボジア国プレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所	60人	子どもたち10,000人	4,185

日本のNGOと海外のNGOとのネットワーク調整及び交流事業	ネットワーク作り 日本及び海外他NGOとのネットワーク作り カンボジア留学生との交流	年間	東京および全国各地 韓国、フィリピン、ネパール、台湾、マレーシア、中国 カンボジア国ブレアビヒア遺跡周辺	10人	NGO関係者 1,000人 カンボジア留学生300人	0
遺跡全般に係る広報事業	広報活動 ホームページ刷新 学生報告会	2015年 11月 2015年 12・1月	カンボジア国ブレアビヒア遺跡周辺、東京法人事務所、東京、栃木県	45人	関心ある一般市民2,000人	324

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
物品販売事業	なし	なし	なし	なし	0
機関紙等への広告掲載事業	なし	なし	なし	なし	0